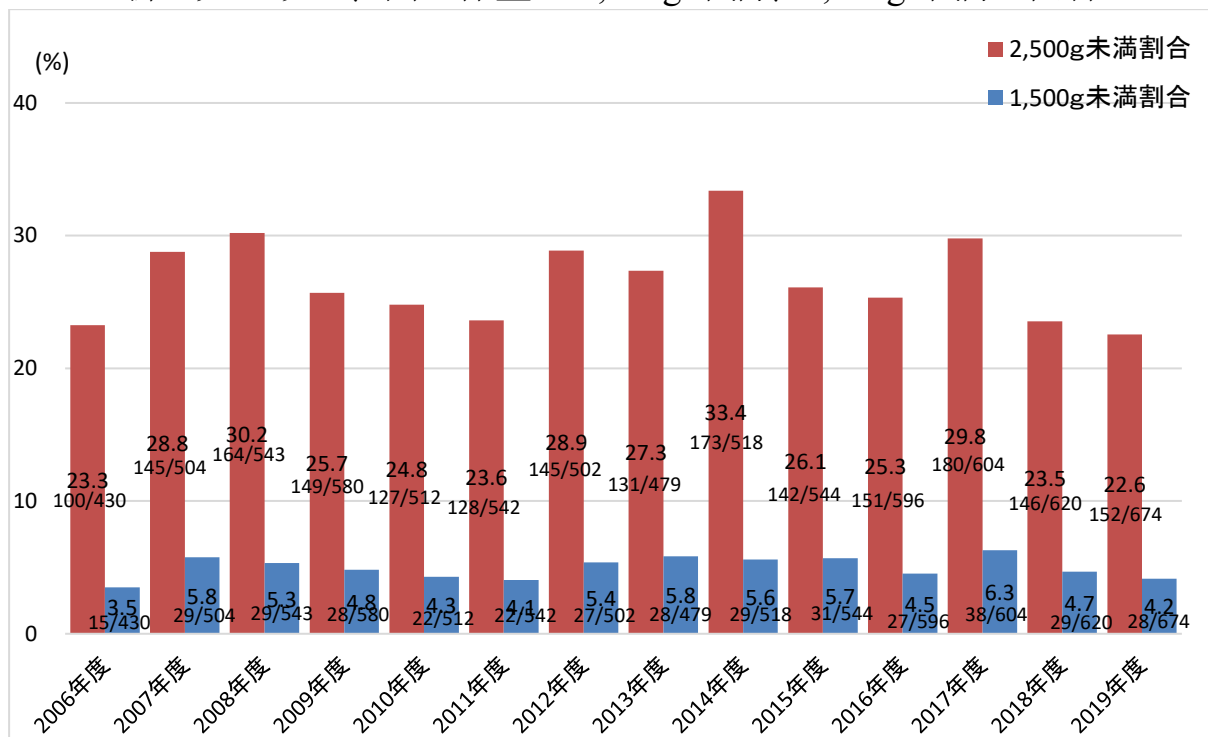


4 4. 新生児のうち、出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合



低出生児の割合は、病院の機能によりこの値が大きく異なるため、他施設とのベンチマークは望ましくないが、当院における出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合は、2006 年以降 14 年間で、前者が 3.5～6.3%、後者が 23.3～33.4%と、概ね横ばいであった。

当院の分娩数は増加傾向で、早産の割合も 2017 年度 23.7%、2018 年度 25.4%、2019 年度 21.1%と上昇しており、ハイリスク妊娠・分娩も増加していることから、こうした状況の中で 1,500g 未満、2,500g 未満の出生体重の割合に変化がないことは、当院の周産期管理体制のレベルアップが寄与している可能性が考えられる。

データ提供 看護部 B-3 病棟（産科）